

1 小学校国語（H23年4月実施 4・5年生）

（1）市学力検査の結果

① 国語の全体的傾向（観点別正答率）

4年生

観点	正答率	関心・意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
本市平均	73.1	79.1	75.7	69.0	64.3	76.4
全国平均	69.3	72.7	74.0	60.4	63.6	72.2
比較	+3.8	+6.4	+1.7	+8.6	+0.7	+4.2

5年生

観点	正答率	関心・意欲	話す・聞く	書く	読む	言語
本市平均	72.0	73.4	65.0	68.7	71.7	72.9
全国平均	70.0	67.6	62.3	62.5	70.7	72.3
比較	+2.0	+5.8	+2.7	+6.2	+1.0	+0.6

<考察>

4・5年生ともに、全国平均を上回る正答率となった。観点別にみても、全ての観点において全国平均を上回っている。特に「書く能力」においては顕著である。

一方で「読む能力」については、他の観点に比べて達成度が低く、4年生においては期待正答率を2ポイント下回った。今後、読解指導に力を入れ、バランスのとれた国語力を身に付けさせることが課題である。

（2）設問別分析 改善策・対策

各学年において達成率の低かった問題、それらに対する改善策・対策は以下の通りである。

4年生

27問中、期待正答率に到達できなかったのは7問、うち全国平均を下回った問題は1問であった。

設問4-(2) 読むこと（物語の情景を叙述をもとに想像しながら読むことができる。）

・ おたがいにふしぎに思いながらとありますが、何がふしぎだったのですか。次から一つえらんで、その番号を書きましょう。

- 1 自分の家の庭にある、稲むらの稲が少しもへっていないこと。
- 2 自分の家の庭にある、稲むらの稲が少しふえていること。
- 3 月の光が、一本道を真昼のように明るくてらしていること。
- 4 月夜の一本道を、大きな荷物をしょった人が歩いてくること。

（本市正答率：54.3% 全国正答率：55.9% 期待正答率：60.0%）

<考察>

正解は4であるが、1と答えた児童が29%見られた。

叙述を細かく見ていくと、場面の情景や物語の設定が理解できるが、それらに目が行かないため、間違った解釈をしたまま読み進めてしまっていることが要因かと思われる。設問(3)(4)においても、見当違いの誤答が目立った。教科書教材においても、普段から情景や心情を文章から読み取る学習を積み重ねていく必要がある。

また、説明文の問題においても見当違いの誤答が目立った。理由として時間的な余裕がなかったことが考えられる。市販のワークテストでは、既習の文章で問題量も少ないが、今回のように問題量が多い初見の長文問題では、書かれている内容を理解するのに時間が足らなかったと思われる。今後、このような長文読解の学習を積極的に取り入れていくことで、限られた時間の中で書かれている内容を正しく理解する力が伸びていくものと思われる。

その他においては、教科書に出てこなかった熟語の読み書き、国語辞典の使い方や対義語についての正答率が低かった。個人で辞典を用意し、普段から使う習慣を付けさせ、使いこなしていくことで、語彙力も向上していくものと思われる。

5年生

27問中、期待正答率に到達できなかったのは4問、うち全国平均を下回った問題は1問であった。

設問5-(3) 読むこと(目的に応じて、説明文の内容を大きくまとめながら読むことができる。)

・ 次の文のうち、筆者が言っていることはどれですか。一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ふぶきがふき始めると、雪国の人たちは雪囲いのじゅんぴを始める。
- 2 雪囲いは、ふぶきの多い所では、特にじょうぶに作られる。
- 3 雪囲いの内側には、雪囲いの外側よりもたくさんの雪が積もってしまう。
- 4 雪国の冬の生活は、雪囲いを作って、雪から家を守ることで全てが終わる。

(本市正答率：48.8% 全国正答率：50.7% 期待正答率：60.0%)

<考察>

正解は2であるが、1と答えた児童が24%見られた。

本文は「雪囲い」について書かれているが、雪国の生活、は自分たちの生活からかけ離れたものであり、書かれている内容を具体的にイメージすることは困難であったと思われる。また本文では、ある事柄を述べてからその理由や補足の説明を述べているが、前後の文のつながりをよく考えないと、大切な内容が読み取りにくい。

(1)、(2)については、細かい点に注意して文章を読むことがねらいとされているが、これらの問題については達成率も高い。説明文の学習においては、書かれている事柄を一つ一つ細かく読み取っていくことに力を置きがちだが、まとまりに注目しながら読むことにも気を配っていく必要がある。

その他においては、パンフレットの資料とそれをもとにした計画の話し合いから、目的に応じて内容を正しく読み取るといった問題についての正答率が低かった、解き慣れていない問題の形式であったり、実際に資料をもとに計画を立てるといった経験の不足から、必要な情報を取り出すほど資料を読み込めなかったことが原因かと思われる。加えて、残り時間も少なく、十分に資料を読み込むことができなかったことも要因の一つかと思われる。今後、校外学習等の機会に、資料から必要な情報を探し出し、計画を立てるなど実生活に結びつけながら資料を読み取る力を付けさせることが必要かと思われる。

また、昨年同様、訓読みの漢字と修飾語の問題についての正答率も低かった。今後、訓読みの練習や、修飾・被修飾の関係に注意を払いながら読み取ることを積極的に取り入れていくことが大切である。

2 中学校国語（H23年4月実施 1・2年生）

下野市学力検査（1年生）

（1）学力調査の結果

① 国語の全体的傾向（平均正答率）

観点	教科全体	基礎	活用	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
市内平均	78.1	80.0	67.1	79.0	88.2	73.0	76.4
期待正答率	72.2	73.5	65.0	78.8	63.0	67.9	76.8
比較	+5.9	+6.5	+2.1	+0.2	+25.2	+5.1	-0.4

<考察>

国語全体の平均正答率をみると、「書くこと」の領域において期待正答率を大幅に上回る解答状況であった。「書くこと」の領域においては、出題のねらいにあった表現能力が身につけているといえるであろう。今後も各教科・領域における「言語活動」をより一層充実させていくことが大切であると考えられる。

（2）設問別分析

① 3－（3）「言葉の使い方と熟語の構成」

「ことわざ」の意味・用法

猫に小判・好きこそものの上手なれ・情けは人のためならず・かっぱの川流れ

（市内正答率71.4% 期待正答率60%）

<考察>

この問いに答えるためには、ことわざの意味の正しい理解と活用力が必要である。

語句の学習においては、語句そのものの意味を指導するだけでなく、日常生活の中で使えるよう指導することが大切である。また、多様な言語活動の中で適宜注意を促して知識の定着に努めていきたい。

② 4－（2）「説明文の内容の読み取り」

段落相互の関係の理解（形式段落から意味段落をとらえる。）

（市内正答率55.0% 期待正答率60.0%）

<考察>

この問いに答えるためには、段落相互の関係をとらえながら読み、内容を的確に理解する能力が必要である。

説明文の読解においては、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意することが大切である。

下野市学力検査 (2年生)

(1) 学力調査の結果

① 国語の全体的傾向 (平均正答率)

観点	教科全体	基礎	活用	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
市内平均	73.3	75.3	66.3	81.7	79.5	71.3	69.4
期待正答率	71.1	74.0	61.4	70.0	63.0	67.0	78.3
比較	+2.2	+1.3	+4.9	+11.7	+16.5	+4.3	-8.9

<考察>

国語全体の平均正答率をみると、おおむね期待正答率を上回る良好な成績であった。特に「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域において、特に顕著である。

また、「言語事項」においては、文法・語句に関する知識の定着に個人差がみられる。

(2) 設問別分析

① 7-(1)「新聞記事の読み取り」

新聞記事を読み取って要約し、リード文の一部を書く

(市内正答率34.3% 期待正答率40%)

<考察>

この問いはリード文の一部分を答えさせる問題である。新聞記事全体の内容を読みとり、5W1Hに要約する能力が必要である。同時に新聞記事の構成(見出し・リード文・本文)に対する理解が求められる。常日頃から新聞を身近なものとして学習に取り入れること、新聞づくりのスキルのきめ細かな指導、他の教科・領域との連携が望まれる。

② 3-(1)(2)「文法・語句に関する知識」

(1) 修飾・被修飾の関係

(市内正答率46.1% 期待正答率80.0%)

(2) 文を単語に区切る

(市内正答率57.8% 期待正答率75.0%)

<考察>

3－(1)の問題では修飾語と被修飾語の位置が離れていたために正しい答えを選ぶことができない生徒が多かったと思われる。全体的に「言葉の単位」や「文の組み立て」に対する理解が低い。文章読解の中で文法的内容を応用的に取り込むような指導が継続して必要である。